

中学生の皆さんへ

コロナウイルス感染拡大防止のための緊急事態宣言発令により休校など多くの制限があるなか、特に柔道は接触競技のスポーツのため、多くの方が稽古もできずにいると思います。さらに追い打ちをかけるように、全国中学校大会も中止が決定しました。全国大会を夢見てきた強化選手をはじめとするみなさんは本当にかかりやすくなることになりました。私も一人の指導者として、また強化委員長としてみなさんの活躍を頭に思い浮かべてきただけに、残念でい方がありません。そしてそれは、皆さんのお父さんやお母さんをはじめとするお家の方やあるいは道場の先生方など皆さんを応援するすべての人が同じでははじかかと思ひます。このことは自分ではどうすることもなく、この悔しい思いをぶつけるところもありません。誰かや何かのせいにはできないものだから。私はこのような非常な事態の時は努めてこうするようになっています。「自分にできることを<sup>しつこく</sup>粛々と行う」。私は千葉の委員長として一人の指導者、一人の教員として皆さんに道を指し示し、導くことが自分のすべきことだと思ひています。そう思ひこの手紙を書かせてもらっています。全中大会をはじめとする多くの大会が中止になり、柔道もできない

今の状況は本当に辛いですが、それよりも辛いのは皆さんの命がなくなってしまうことです。命さえあれば何だってできるからです。我々大人は未来ある皆さんが元気でいることが何より大切なことです。全中大会の中止に関しては、多くの方が悩み、色々なものを天秤にかける、皆さんの命を優先したのであります。このことにいつまでもこだわっていても何も進みません。しかし時は進んでいるのです。この事が自分の糧となりより良い人生を送れるように考えよう。東五輪内定の向翔一郎選手も、「全中がなかったから今があると言えるように頑張ろう」とおっしゃっています。大会はなくなっても今まで重ねてきた努力はなくなりません。そしてあなたの努力は必ず誰かを見て認めてくれていることでしょう。大人になつてから柔道をやってきた本当の素晴らしさをたくさん感じるようになると思ひます。私も全国大会はおろか関東大会にも出場していません。賞状なんて中学校では一枚ももらっていませんが、今柔道をやつて良かったと胸を張つて言えます。だから自分の柔道人生が終わつたなんて思わないで下さい。大丈夫、苦しいことがある、たつた必ず「良いこと」があります。だから今は自分にできることを<sup>しつこく</sup>粛々と行ひましょう。皆さんと一緒に稽古できる日を楽しみにしています。千葉県中学校体育連盟 柔道専門部 高品亮輔